

はじめに

本書は「アフリカ」という一つの地域を2分冊でとり上げたうちの第2番目で『アフリカII』と名付けられている。『アフリカI』の「総論」で説明したように、アフリカ研究のこの2分冊は、ミクロの主題とマクロの主題という視点から編集してある。

『アフリカI』でとり上げたミクロの主題とは、対象地域の範囲を小さく限って観察しないと見えにくい問題、換言すれば社会の基本的な構造が、小さな対象に表われており、視野を限って、研究者が対象により近く、深く接しないと、その特徴を把握することができないという種類の主題である。これに対し『アフリカII』でとり上げるマクロの主題とは、分析枠をより広く設定し、その全貌をとらえなければ理解されない主題、国際的に展開されている大きな力が特定地域に強い影響を与えていることを考慮して、分析対象地域以外の地域との相互関係を問題にする主題を意味する。したがってこのようなマクロ主題では、通常、発展途上国の社会変動を、その社会の枠を越えて外的拘束を受けるものとしてとらえた場合の政治経済構造を扱うことになる。

本書は第I部と第II部より成るが、第I部の「総論」では、現代のアフリカに関するマクロ問題群の性質に即して、アフリカの内的構造を重視しつつ外的拘束を検討する方法論を第1章でとり上げ、ついで第2章で、マクロ事象とミクロ事象の関連をどのように分析すべきかについて考察を行う。第3章では、アジア経済研究所の30年余のアフリカ研究の成果から、マクロ主題の問題群を五つにまとめ、個々の論文でとり上げられた分析視角の検討を通して、問題群としての性格を明らかにすることを試みる。

第II部の「アフリカ論」では、この五つのマクロ問題群に属する代表的な

論文を九つ収録した。『アフリカ I』では三つのマイクロ問題群に属する11論文を収録したので、2分冊全体の収録論文数は20となる。『アフリカ II』においても紙面の制約から、オリジナル論文の一部を割愛して収録せざるをえなかったことをことわっておきたい。

最後に「総論」の末尾に掲げた「引用文献」リストには、スペースの関係上、第I部で触れられなかったものも含まれていることをご理解いただきたい。またこれら以外にも、思わず見落している論文もあり得るが、このリストは決して完全に網羅したものではないことを諒承していただきたい。